～読書の秋、本との出会いを楽しもう～

きらきら



紙の本？電子書籍？
あなたはどっち派ですか？

読書の楽しみ方は人それぞれです。紙の本と電子書籍、それぞれの魅力を知って、自分に合ったスタイルで読書を楽しんでみませんか？

紙の本のいいところ

●本棚に並べる楽しさ

お気に入りの本が並んでいると嬉しい♪



●じっくり読める

ページをめくることで記憶にも残りやすい…



●思い出として残せる

電子書籍のいいところ

●いつでもどこでも読める

スマホやタブレットで場所を選ばずに読める！



●たくさん持ち歩ける

何冊でも入るので荷物にならず便利★



●文字の大きさを変えられる

一街の本屋さんが少なくなっていますー

最近「近くの本屋さんがなくなった…」という声を聞くことがあります。一方で、電子書籍はどんどん身近になってきています。便利さが広がる一方で、本屋さんだからこその魅力もあります。

思いがけない１冊に出会える

立ち寄った時、心に残る本が見つかることも…



店員さんのオススメ

自分では選ばない本に出会えるのも魅力★



表紙を見ながら選ぶ楽しさ

たくさんの本の中から直感で選べるワクワク



地域の文化を支える本屋さん

地域のつながりや文化を育む拠点になっています



本を読むと、いつもの景色が少し違って見えるかも…



本を読むと、自分とは違う年代、性別、仕事、考え方、生き方に出会えます。
「そんな考え方もあるんだ…」と知ることは多様性を理解する第一歩。読書は知識を増やすだけでなく、お互いを尊重する気持ちを育ててくれるかもしれません。
この秋、自分とは少し違う主人公の本を読んでみませんか？

きららは年4回発行しています

伊賀市男女共同参画センター情報誌「きらきら」は5月・8月・11月・2月の年4回発行しています。
市内各地区で回覧しているほか、ハイトピア伊賀４階 男女共同参画センター、伊賀市役所本庁舎２階人権政策課、各支所にも設置しています。回覧だけでなく、「ゆっくり読んでみたい！」という方は、ぜひお持ち帰りください。気になる記事があれば、ゆっくり読んでみてくださいね♪

伊賀市男女共同参画センター情報紙

きらきら

2026 秋号

今、ひとりひとりが…

第82号

History

「桜梅桃李」という言葉が好き！
それぞれ可憐に咲き使命を果たしながら人々の心を和ませてくれる花･花･花。
一人ひとりが今、居る場所で自分らしく生き、自分らしく「きらきら」と輝いていける21世紀でありたい…。

Contents

- 伊賀市議会女性議員ネットワーク会議活動報告
- 「いきいき未来いが 2026」実績報告
- Topics「災害への備えに「女性の視点」を」
- 読書の秋、本との出会いを楽しもう

～紫色に込められたメッセージ～

毎年 11 月 12 日～25 日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です

「女性に対する暴力をなくす運動」は女性に対する暴力をなくし、誰もが安心して暮らせる社会をつくるための運動です。ＤＶや性暴力、セクハラ（セクシュアルハラスメント）など、女性に対する様々な暴力について知ってもらい、「暴力を許さない」という意識を広げることを目的としています。
今年のテーマは「その不安、話すだけでもいいんです」

「これってDVなのかな？」
「嫌だったけど、相談していいのかな？」
そんなふうに迷った時も相談して大丈夫です。

すべてを話さなくてもいい。
すぐに答えをださなくてもいい。
まずは自分の気持ちを誰かに話してみることから始めてみませんか。



パープルライトアップ 2026

11 月 12 日（木）～25 日（水）18：00～21：00



女性に対する暴力をなくす願いを込めて、建物などを紫色にライトアップする取り組みです。今年は「伊賀上野城」をライトアップします。「一人で悩まず、相談してください」というメッセージも込められています。

オレンジリボンツリーとのコラボ展示

11 月 2 日（月）～30 日（月）伊賀市役所本庁舎１階

毎年 11 月は「児童虐待防止推進月間」です。
「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」として、虐待防止のメッセージを飾るオレンジリボンツリー及び啓発パネルを展示します。



ペーパークラフトで作った熱帯魚（通称：つむぎちゃん）プレゼント★



（昨年の様子）

ひとりで悩んでいませんか？まずはご相談ください。

伊賀市役所こどもの育ち支援課「女性相談」
☎0595-22-9609
月～金（祝日・年末年始を除く）
9：00～16：30

みえ性暴力被害者支援センター『よりこ』
☎059-253-4115 または#8891
月～金（祝日・年末年始を除く）
9：00～17：00

三重県女性相談支援センター（三重県配偶者暴力相談支援センター）
☎059-231-5600 または#8778
月火木金　9：00～17：00
水　　9：00～20：00
（祝日・年末年始を除く）

三重県男女共同参画センター『フレンテみえ』
☎059-233-1133
火～日　9：00～12：00
火金土日　13：00～15：30
木　　17：00～19：00
（年末年始及び月曜日祝日の場合の翌平日は除く）

発　行（令和8年 11 月1日発行）
伊賀市　人権生活環境部　人権政策課
〒518-8501　三重県伊賀市四十九町 3184 番地
TEL:0595-22-9632　FAX:0595-22-9641
Email：jinken-danjo@city.iga.lg.jp

編　集
伊賀市男女共同参画センター情報誌「きらきら」編集スタッフ
竹山 佐代子　・　岡 久美子
的場　裕子　・　矢野　美幸
（担当）　永井口 英哲　・　小川　文香

伊賀市 HP でもご覧いただけます☆

伊賀市議会女性議員ネットワーク会議 活動報告

昨年度から始まった伊賀市議会女性議員ネットワーク会議では、会派を越えて調査研究や意見交換を行っています。今年度は「防災」をテーマに調査研究を進めるとともに、子育て・福祉分野における連携のあり方についても学びました。
今回は３つの活動をご紹介します。

「災害を知る、地域を知る、人を知る」

地域ぐるみの防災の先進事例として、伊勢市の「浜郷まちづくり協議会」を視察しました。
東日本大震災をきっかけに、地域や学校などを巻き込みながら 10 年以上にわたり防災活動を継続。防災リーダーの育成や毎年の防災訓練、小学校と連携した防災教育などが評価され、令和３年度には「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞されています。



地域ぐるみで防災に取り組む
浜郷まちづくり協議会の皆さんと

毎年 500 名以上が参加する防災訓練や小学校での HUG、各家庭での避難計画づくりなど、実践的な取り組みから、防災を通じて人とつながることが地域の力になることを学びました。

避難所は誰が運営する？



有志の議員で HUG を体験
能登半島災害支援時の経験もお聞きしました

浜郷地区でも取り組まれていた避難所運営ゲーム（HUG）を女性議員ネットワーク会議を中心に、有志議員で体験しました。高齢者や障害のある方、乳幼児連れや妊婦さんへの配慮、物資やトイレの管理など、次々と起こる課題にチームで対応しながら避難所運営を疑似体験します。
伊賀市でも住民自治協議会や自治会などで HUG に取り組んでいる地域があります。実際に体験することで避難所は地域住民も一緒になって運営すること、日頃からの備えやつながりが大切であることを改めて実感しました。

子育て・福祉を「つなぐ」

伊勢市の「健康福祉ステーション」は駅前ビルの３フロアに妊娠・出産子育て・発達相談・福祉相談などの機能を集約した拠点です。子育て支援センターにはプレイルームや一時保育などがあり、相談室や会議スペースも充実。関係部署が連携しながら、必要な支援につなげる体制が整えられていました。特に印象的だったのは「これはうちの担当です」ではなく「どう連携して支えるか」という職員の皆さんの姿勢。部局の枠を越え、切れ目なく支える仕組みと組織づくりに多くの学びがありました。これからも会派を越えて学びや意見を共有し、それぞれの議会活動や地域での取り組みに活かしていきます。



遊びと相談がつながる
明るく開放的な空間

伊賀市議会女性議員ネットワーク会議
会長　赤堀久実　　副会長　桃井弘子　　事務局長　寺村京子
百上真奈　　山下典子　　山口康子　　陶山美佐　　大石亮子

男女共同参画フォーラム

いきいき未来いが 2026

笑って学ぼうくらしのカタチ ～男の家事は地球を救う～

ー7月4日（土）に伊賀市文化会館で「いきいき未来いが 2026」を開催しましたー

いきいき交流広場

伊賀市男女共同参画ネットワーク会議会員や障がい者就労支援施設の皆さん地元高校生による展示や物販でにぎわいました。






オープニング

桜丘中学校・高等学校ハンドベル部の皆さんが、ハンドベルの素敵な音色をホールに響かせてくれました。
実行委員の皆さんがハンドベル体験として、「きらきら星」を演奏しました。





講演会（動画上映）

講演を予定していた瀬地山角さんが急逝されたため予定を変更し、瀬地山さんが生前ご講演された様子を録画したビデオを上映しました。



Topics part59　災害への備えに「女性の視点」を

最近地震が多く、「もしもの時の備え、大丈夫かな？」と考えることもありますよね。
災害時に困る事や必要なものは、人それぞれです。女性と男性でも、必要な支援や備えておきたいものが違う場合があります。内閣府男女共同参画局のガイドラインでは、災害への備えや避難所の運営に女性と男性それぞれの視点を取り入れることが大切だとしています。
令和７年８月には、備蓄チェックシートの「女性用品」の項目も見直され、使い捨て下着などが追加されました。
誰もが安心して過ごせる地域にするために、身近な地域の防災備蓄をチェックしてみませんか？

地域の防災備蓄　ちょこっとチェック！

□生理用品　□使い捨て下着　□乳幼児用品
□間仕切りなどのプライバシーを守るもの
□中身が見えないゴミ袋　□防犯ブザー

災害対応力を強化する女性の視点
～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～



「これあるかな？」の小さな気づきが
みんなの安心につながります。